

平成24年度の学校評価について(最終報告)

鹿児島城西高等学校

	努力目標	評価項目	数値目標等	具体的方策	評価	反省・今後の改善点	具体的方策
総務部	学校の実態に即した目標を設定し、教育目標を具現化する。	○経営方針の明確化とその実践	○保護者会・集会等を通して浸透を図る。 ○保護者会やレポート等を通して情報公開をする。	○望ましい教師像や望ましい生徒像を、生徒・保護者に対し、機会あるごとに明確に示す。	B	○学校説明会参加者に対しても、教育方針をくり返し提示し今後も理解を求めたい。	○保護者との情報共有と共通認識で連携を図る。
	学習指導要領の趣旨を生かした特色ある教育課程を編成する。	○創意工夫を生かした教育課程の実施	○教育課程の見直しと検討会の実施をする。	○個々の生徒の進路に適した特色ある教育課程を編成し実施する。	A	○特色ある教育課程について、今後も状況を見ながら実態に即した教育課程の編成を心掛けていきたい。	○特色ある学科・コースを生かした新教科・科目を導入していきたい。
	生徒の実態に即した効果的な行事を行い、活動内容を工夫する。	○学校行事の改善・充実	○運営委員会で毎月、毎学期見直しをする。 ○部長会を毎月実施する。	○生徒の実態に即した見直しを行い、活動内容を工夫する。	B	○体育祭・文化祭・文化公演の大きな学校行事に対しては、生徒・保護者・職員ともに評価が高い。今後も一層の充実を図りたい。	○運営委員会を有効に活用し、各部長や科長との連携を密にし効率的な運営を実施していきたい。
教務部	的確な実態把握と、習熟度に配慮した学習指導の実践に努める。	○学力の個人差を配慮し、分かりやすい授業の実践と授業評価の実施	○「わかる授業」の教科目標について、5段階評価で4以上の評価を達成する。	○授業評価アンケートを年2回実施し、全体研修会を行い、授業改善に努める。	B	○教師の授業評価全体項目については、今後も「わかる授業」の実践に努めていきたい。また、生徒の発表の場を積極的に設けていきたい。	○学習目標の明確化と授業の展開を工夫し、今後も「わかる授業」に努める。また、教職員の研究授業を定期的に行い、教師相互の学習指導技術の向上を図る。
	学習環境を整備し、自ら考え、自ら学ぶ力の育成に努める。	○各種の資格・検定取得の奨励と補習指導の充実及び模擬試験の実施	○諸資格取得試験の合格率85%以上を目指す。	○各科における資格取得年間計画の作成並びに補充授業や放課後の補習等を実施する。	B	○各種資格取得試験の合格率が、目標に達していない。今後は、合格率の低い検定について、具体的指導の充実を図りたい。	○検定合格者について、全校集会での表彰を行う。また、検定結果を報告させ、指導・助言にあたる。さらに、補習計画の確立に努める。
生徒指導部	充実した高校生活を送り、生涯忘れない感動を共有させる。	○諸行事に対する意欲の醸成と協調性の確立	○学校行事等への参加意欲向上を図る。 ○各行事遂行にあたって、その目的意識を身につけさせる。	○教職員間の徹底した連携を図り、問題の早期解決に努める。 ○部長は、行事に参加している生徒全体の様子を観察し、事前・事後指導を的確に行う。	A	○二・三名の問題傾向生徒に扇動され、校内の規律が守られなくなることもあった。今後は、厳重な指導が必要である。 ○行事の事前・事後指導を、より効果的なものにする工夫をする。	○職員研修等を通じて、教職員の指導力向上ならびに教員集団の組織力強化を図る。 ○指導内容の共通理解を図り、より効果的な指導を行う。
	突発的な問題(天災や人災など)にも、臨機応変に対応できる指導体制を確立する。	○公共機関との連携を保ちつつ、生徒の安全を確保する。	○危機管理意識を高める教育を計画的に行なっているか。	○防災訓練等への真剣な取り組みを促すべく、事前・事後指導の徹底を図る。	B	○一部の生徒は、訓練に対し真剣さが欠けている。訓練の目的を理解させたり、危機意識の向上を図る指導の工夫が必要である。	○場合によっては訓練のやり直しなどを行い、生命の問題に対する危機意識を持たせる指導を行う。

進路指導部	職業観・勤労観・人生観の育成に努める。	○学年別合同進路指導やホームルーム活動の活用	○進路決定率100%を目指す。	○進路選択の指導助言の充実 ○進路ガイダンスの充実 ○就業体験学習の実施 ○関係機関との連携	A	○早い時期から自分の進路を見据えた学校生活を送るよう指導し、生徒の意識改革に努めていきたい。	○学年毎の合同進路指導や進路に関するホームルーム活動を実施し、進路に対する自覚を持たせる。 ○進路指導室の利用促進に努める。
	自主的な学習態度の育成を図り、学力向上に努める。	○就職模擬試験、英語・数学小テストへの積極的な取り組み	○就職模擬試験、英語・数学小テストの平均点アップを図る。	○年間計画に基づいた計画的な学習を促す。 ○過去の受験反省記録の活用を図る。	A	○英語・数学の小テストや就職模擬試験を通して、基礎学力の向上を図っていきたい。	○基礎学力の向上を目指すため、教科担当との連携を図り、試験の事前・事後の指導に努める。
中高連絡・広報部	各部・各学科の連携を強化し、全職員による生徒募集態勢を確立する。	○入学者の定員確保	○各学科定員の100%確保	○教育内容の充実と向上 ○中学校との連携強化	A	○学校説明会や中学校訪問を数多く実施し、本校についての理解を深めていただく。 ○各部・各学科で共通理解を図り、募集活動を展開していく。	○対外的な各種の行事を生徒募集の一環として全職員が捉え、本校の特色についてアピールしていく。
	本校の教育内容を対外的に広く紹介し生徒確保に努める。	○一日体験入学参加者の増強	○一日体験入学参加者2000名の確保	○魅力ある体験入学の実施 ○生徒主導の講習内容の実践	A	○体験入学の内容の検討とマンネリ化の防止 ○思い出に残る魅力ある楽しい体験入学の実施	○参加者に対してアンケートを実施し、体験内容の満足度等を把握するとともに、内容の継続・見直しを検討する。 ○参加状況の推移等についての調査を行い、より魅力ある体験入学となるよう職員の意識を高める。
特別支援教育部	学習意欲を高め、社会生活及び職業生活に関する基礎学力の向上に努める。	○学習目標や学習過程の明確化と活気ある授業の展開	○学習目標の板書及び学習過程の説明95%以上	○学習目標の板書 ○教材教具の活用 ○個別指導の徹底 ○進路につながる学習内容の選定	B	○社会生活の基礎となる学力の定着を図った。また、ワープロ検定等の資格取得を推進し、自信をつけさせるようにした。 ○現場実習等を通じて勤労生活に関する姿勢を身につけさせるべく取り組んできた。	○生徒の学力の実態を正確に把握し、できるだけ個々に応じた指導を継続する。 ○職業訓練の学習や1・2年次の現場実習の充実を図りたい。 ○カリキュラムの改善や指導内容・方法に関する共通理解を図り、統一した方針のもとで職業教育を展開していく。(専攻科カリキュラムの改善)
	身近生活を適切に処理しようとする生活態度の育成に努める。	○正しい身なり、持ち物、机の中やロッカーなどの整理整頓の習慣化 ○返事・あいさつの徹底	○共生コース1年生は75%以上 ○その他の学年は85%以上	○SHRでの具体的な指導と点検 ○係活動の充実 ○即時指導の徹底 ○SHRでの唱和	B	○服装の違反はないが、無関心な生徒も多い。身だしなみに関心を持たせ、周囲によい印象を与える清潔な服装を心がけさせたい。 ○集団生活等の基礎的知識・技能・態度の育成は、全教育活動を通して行ってきた。	○家庭科の学習や保護者の協力を得て洗濯やアイロンがけ等をさせることで、清潔な服装や身だしなみに関する意識を高めさせたい。 ○評価項目や評価基準を設定するなどして、知識・技能・態度の育成達成度を分析的に把握し、課題を明確にしていくようにしたい。